

## 第5回 まちづくり市民協議会会議録

日時：平成26年4月24日 18時00分～

会場：市役所3階大会議室1・2号

出席者 委員 26名（欠席12名）

事務局 6名

### 1 会長あいさつ

本日はお疲れのところ、お集まりいただきありがとうございます。

今年は、桜の花も一気に咲いて一気に散ってしまった。冠山総合公園では、梅の季節が終わったが色とりどりの花が咲いていて春らしい風景となっている。

本日は、議題は1つであるが、内容が2つに分かれている。

まちづくり市民アンケートは、総合計画の進捗状況や、市民意識を把握し、市の取り組みの改善につなげていこうとするもので、総合計画の開始年度である平成19年度から毎年実施されている。25年度の集計結果が整理されたので、ご意見を伺いたい。

政策工程表は、市川市長が選挙時に掲げた公約や、総合計画後期基本計画において優先して取り組むこととして掲げた施策について、方向性や進捗をお示しするもので、この度は、平成26年度予算に基づいて計画等の見直しなどをされている。市長が、「未来への礎」とされた新年度予算をとおして、まちづくりについての議論を交わしたい。

任期が延長されて最初の会議であるが、これまで以上に、光市のまちづくりについて活発かつ発展的な忌憚のない発言をお願いしたい。

### 2 委嘱状交付

○前回の協議会等で承諾を得た任期の延長について、委嘱状を机上交付し、その説明を行った。なお、委員1名については、都合により退任された。

### 3 議題

#### (1) 総合計画の進捗状況について

##### ○まちづくり市民アンケート結果報告及び指標の進捗状況について

事務局より資料に基づいて説明ののち質疑意見等

●委員：資料29ページの「A」重要度が高く満足度が低いものの中に「バス交通網の整備」がある。

この4月から室積方面のバスの便数が減少して不便になっている。特に、高校生の下校時間帯の便が減っており、家族に迎えに来てもらったりタクシーを利用したしているようで、可哀そうに思う。昼の便数は減らしてでも、夜の便数は確保するなど、対策は出来ないか。

- 事務局：「バス交通網の整備」の項目は、昨年もニーズ度が高く、大きな課題であると考えている。

室積方面のバスの便数減少については、附属小学校のスクールバス運行によるものと聞いている。市に対して話があった際に、所管から、方針の見直しについて、バスの運行会社であるJRや附属小学校に対して口頭や文書で依頼もしたが、保護者の意向や利便性、スクールバスを運行した際には車両や運転手の確保が難しいなどの理由から、便数の減少となってしまった。市においても、重要な課題であると認識しており、所管に対しても本日の意見を伝えたい。

- 委員：クリーン光について、予算の見直しをお願いしたい。

指標の資料にクリーン光の参加者数が示されている。光市ぐらいの規模で、これだけの市民の皆さんが参加しているのは、多い方ではないか。その中で、さらに参加者を増やす目標を設定されているが、地域に負担をかけている状況もある。

具体的には、集めたゴミの収集に地域が費用を負担して車両を借り上げている地域もある。目標を高く設定するのであれば、それに見合った予算も措置していただきたい。

- 事務局：非常にたくさんの皆さんに参加いただいております、市としても感謝している。クリーン光は、青少年の健全育成の観点から実施されてきた事業であり、学生・生徒の参加者数は誇れるものがある。これまでも地域の皆さんにご協力をいただいていたから進められてきたことであり、今後も地域の皆様のご協力のもとで実施していきたいと考えている。

予算のことについてはこの場で明確なお返事は困難であるが、、

- 事務局：地域の皆さんのご協力に感謝している。予算に関しては、地域の声を担当部署にも届けていただきたい。住宅街の地区や隣家との距離がある地区など、地域によって違いがあり、活動の状況にも違いがある。

教育所管と環境所管が一緒になって取り組んでおり、主要な事業のひとつでもある。双方でより良い方向性を見出していきたいし、ご意見については所管に伝える。

- 委員：このアンケートを実施する時は、病院の話はどうだったか。現在ではソフトパークに移るということであるが、自分は室積であるが、あの場所では、ますます行き難いという話も聞く。先程バスの話も出たが、更に行き難くなると思うが如何か。

- 事務局：はじめに、アンケートについてであるが、実施した際には、それ以前に病院を移転新築するという方向性についてはお示ししていたと思うが、場所については最近になって示したものであり、アンケートの際には決まっていなかった。

バスに関連しては、現在の病院は交通が便利な場所にあるので、それと比べると国道等の幹線道路からは離れた場所となるが、現在示している場所を選定するにあたっては、交通機能であったりインフラであったりを含めて検討もしてきたもの。

具体的な対策については、現時点ではお答えが難しいが、今後、具体的な話が進む中で、利用の利便性についても整理されるものと考えている。

- 事務局：病院の件については、3月の議会に移転新築についての基本計画を議案として提出しており、現在も議会において継続審議中であり、休会中においても6月議会に向けて審議をされている状況である。只今ご発言いただいたようなことも含めて、議会において病院局との内容の確認等が行われており、その中では、対処の方法などについても審議が行われている。ご意見については、所管にも伝えたい。

なお、室積方面のバス路線の問題と病院のバスを絡めた議論は進みにくいと思うが、こうした視点も含めて室積方面の市民の皆さん方に不安があるということについては、交通の所管に伝えたい。

- 委員：資料34ページにもあるが、冠山総合公園に新しい遊具が設置されたが、その利用状況はどうだろうか。場所的に傾斜が急であるが、利用する人がいるのか。

- 事務局：具体的な利用状況は手元にないので、、、

- 委員：具体的な利用状況というよりは、資料にも「乳幼児から大人までが一年を通じて利用できるように」とあるように、そういったことを見通して作られたのであろうかお伺いしたい。

- 事務局：冠山総合公園については、意見では「乳幼児から大人まで」と記述されているが、小さな子どもと小学生などが混在すると危険であるとの視点から、光市では、小さな子どもについてはあいぱーく内のチャイベビステーションで概ね3歳程度までの子どもを対象にし、冠山総合公園ではこれより大きな子どもを対象とした施設として整備している。冠山総合公園で乳幼児からということ少し難しいと思う。

- 委員：進捗状況の3ページ、下から2番目に「青少年健全育成活動への参加率」とあるが、これの達成率が50%、目標の25%の半分ということで参加率が良くない状況であるが、この参加率はどの様に算出しているのか。

- 事務局：表の左側に記載があるが、市民アンケート調査の中に「青少年健全育成活動に参加している人の割合」があり、25年度のアンケートの結果32ページの⑦の項目の数値を利用している。

- 委員：この回答者は子どもが対象か。また、原因はわかるか。

- 事務局：回答の対象に制限を設けていないので、アンケートに回答いただいた全ての方が対象となっている。資料2ページの年齢区分にあるように、60歳代、70歳代の方が半数以上となっているが、対象を絞って回答を求めたわけではない。

原因については、不明である。年齢階層や地区別の状況などによる整理も検討したい。

- 事務局：アンケートの指標を示すだけでは具体的な改善にはつながっていかないということもあって、市ではこのアンケート結果を庁内で精査をする中で、年齢別等の回答状況を所管で具体的な分析を進めるよう指示を出している。どの様な点が問題点なのかや、何らかの方向性等、所管において整理し、回答したい。

## ○政策工程表（計画編：平成 26 年度）について

事務局より資料もとづいて説明ののち質疑意見等

- 委員：新年度の計画に関するものではないが、以前から取り組んでいるゴミの分別について発言したい。（自作の資料を、会長・副会長・事務局に配布）

アンケートでは、「ゴミの分別をしていますか」との問いに、96.5%の人が「分別をしています」となっているが、エコパークの調査では、22年度が82.3%とピークで、後はどんどん下がり、25年度では73.9%となっている。

市民の皆さんは、96.5%が「分別している」と言っているが、実際の現場では評価値が下がっている。本来であれば上がっていかねばいけない。評価値が下がるということはそれだけ費用がかかり、仕分けをする人の人件費もかかる。資料の34ページにゴミ分別に関する項目もあるが、費用がどんどん増えていくものについては、市民の皆さんに、「あなた方はこういうふうに言われてますが、実際はこんなんですよ。」といった説明もし、「これ位になったら、これだけ費用が減るんです。」というふうにお金に換算して、「費用がこれだけ浮きます。そうすれば別の費用に活用できます。」といった説明をすればよいと思う。ゴミ減量等推進員会議なども設けられているが、そうした中でも話してみたい。

市民の皆さんの意識と実際の分別の状況に差があり、分別率が落ちているということをおまわりご存じないと思われるので、そういった点をしっかり説明し、分別率が上がれば費用が削減でき、違ったところに充てることもできるので、自分たちができるところはどんどんやって、率が上がっていけばよい。

下がっていくのを見過ごしていくのは良くない。何の項目においても同じことが言えると思う。把握している数値が疑問視されるようになると、何事もうまくいかないので、よく説明してほしいし、みんなで考えていきたい。そうすれば、市もよくなるし、自分たちの生活もよくなると思う。

- 事務局：ゴミの分別率についてご意見をいただいた。市としても手をこまねいてみる訳ではなく、出前講座など色々な施策を行っているところであるが、現実問題として下がっており、「市はもっと対策を」とのお叱りをいただいたと思っている。PRについて、所管は様々な手法を工夫しているところである。予算や費用といった視点でのPRも考えてみてはどうかといったご意見をいただいた。ご意見については所管に伝え、引き続き分別率の上昇に努めたい。

●事務局：現在の協議の内容は政策工程表であるので、若干内容がずれるが、少し補足させていただきたい。ひとつの指標にはひとつの切り口しかない点がある。まちづくりの指標の資料 11 ページをご覧ください。真中から少し下あたり、現在光市が総合計画において目標値を定めて指標としている項目があり、こうした複数の指標の推移を見ながら全体的にどの点が弱くなっているかなどの把握もしている。

今、分別をしている人の割合が 96.5%、実際の分別率が 73.9%と、地元紙で報じられているといったご指摘をいただいた。この点については、所管の環境事業課においても認識しており、ゴミ処理施設の組成調査というのは大きな指標のひとつであり、これの低下を懸念しているが、具体的にこれが上がってこないということもある。市としても複数の指標を見ながら取組みを進めてまいりたい。

●委員：防災部の見地から発言したい。27 ページの防災訓練の実施の項であるが、昨年 25 年度は山口県総合防災訓練の実施が予定されていた。私どもは、人集めに色々と手を尽くしていたところであるが、天候の関係で中止となった。中止ということは非常に残念であった。

今年度も訓練は実施されると思うが、中止ということは止めていただきたい。大切な問題であるので、1週間でも2週間でもよいので延期ということも考えていただきたい。もう 1 点。私は、島田川の河口近くに住んでいるが、島田川の中に葦がたくさん生えている。市長さんとの対話集会など、あらゆる場面で出る話であるが、行政の方から「こういうふうに対策をとります」ということを一度も聞いたことがない。

なぜこのような発言をするかという、自治会の総会で話が出たことであるが、この葦のために、20 年ぐらい前と比べて、川の砂が 30～50 センチぐらい盛り上がっているように見受けられる。葦も野鳥の会の皆さんにとっては重要な大切な問題かもしれないが、島田川の氾濫ということを考えてとき、それだけ砂が盛り上がり水の流れも悪くなっている、あるいは夏になったら蛾が大量に発生し苦労している住宅もある、といったことから自治会の代表者が市に対して要望書を提出している。

是非、県に要望をして早急に対策をとっていただきたい。10 年計画でもよい。予算はかかるだろうが、毎年々々少しずつでもよいので川底の砂を除去していただきたい。今は予期しない災害が起きるかもしれない。その時のために対策をとっておくという観点から、是非お願いしたい。

●事務局：防災訓練について中止ではなく延期していただきたいとのご意見をいただいた。平成 25 年度については、県の防災訓練を兼ねていたことから、県が中止になった関係で中止となったことであろうかと思う。規模も大きかったこともあって延期ということが難しかったのではないかと推測する。

市の防災訓練について、この場で「中止ではなく延期します」とのお答えは困難ですが、市としても重点的に取組んでいる課題でありますので、このようなご意見があったことについて、所管に伝えて検討したい。

島田川の葦の問題、堆積した土砂の問題につきましては、河川の管理者が県でありますことから市が直接対応することにはならないと思うが、

- 事務局：明確な答えが返ってこないとのこと意見をいただいた。ご発言いただいたとおり、市としても河川管理者である県に対して要望するというので、（知事要望書を示しながら）このような要望書を市長自ら県知事に持参し、お願いもしているところである。写真を添付したりして継続して要望しているが、現状を打破するところまでは至っていない状況である。所管においても皆さんの声を聞いて、我がこととして対応したい。

また、防災の件については、去年は防災をテーマに対話集会も実施しているし、非常に重要な項目であろうと思うので、切実な声として所管に伝えたい。

- 委員：今、一番大事なのは人と人との繋がりであると思う。というのも、政策工程表 7 ページに「公民館の自主運営への支援」ということで財源も増額されているが、各地域で安心して暮らせるというのは、自治会の機能であるとか市の職員に代わって、色々なお世話をさせていただく方を増やしていくことではないかと思う。

防災であるとかゴミの収集など、自治会が自治会として皆さんに協力していただかなければ、ここの協力がなければ市への協力というのは無いのであるから、協力いただく方を育て、または支援していくというものは市の仕事ではないかと思う。

特に一番やりたくない、手間のかかる、時には人に嫌われることでも皆さんの住みよいまちのために発言していただく、このような方々を支援していくことについても、今後取り組んでいただきたい。

- 事務局：市としても、地域の協力なくしてまちづくりが進んでいくとは考えていない。6 ページにあるコミュニティ推進の基本方針、策定が遅れているが、こうしたものを作る段階でも地域の皆さんのご協力をいただいておりますし、引き続きご協力をいただかなければならないと考えている。今後も、「育てる」というと語弊があるかもしれないが、そうした人材の発掘であるとか支援については努めてまいりたい。

- 委員：37 ページに「里と海を活かした第六次産業の創造」の項で、農業・漁業に加えて、里山であれば林業もある。この計画を立てる段階ではあまり活動していなかったが、現在では活動もあり、計画期間中にも活動して盛り上げていきたい。

- 事務局：政策工程表について、これが市が行う全ての事業ではない。冒頭にも説明したように、市長の公約や市が掲げる 7 つの未来創造プロジェクトに関連の大きい事業をピックアップして掲載しているものであり、林業の項目については掲載がない。

そうは言っても、市には林務の担当もあるし森林組合もあり、造林や保育の事業を実施している。全ての事業を掲載しているのではないことについてはご理解いただきたい。

- 事務局：政策工程表については、7 つの未来創造プロジェクトなどに沿って重点的なもの

のを掲載している。今のようなご意見についてはこれまでもいただいている。  
この中には掲載がないが、総合計画の中には特用林産物の消費拡大などの項目も掲載しており、全体として様々な政策を展開しており、所管においても認識している。

- 委員：資料 29 ページの防災についてである。防災マニュアルの充実の項で「避難所運営マニュアル策定に向けて検討」とあり、これが 24 年から 28 年までに策定するとあるが、昨年も日本海側の萩、須佐、島根県で大変な災害が発生している。私も、青年会議所として災害ボランティアに参加させてもらったが、ほとんど全てのライフラインがストップし、全然機能していない状況であった。その中で、社協がてんやわんやの状況で取りまとめにあたっていて、本当に災害になった時に周囲のネットワークが全くつながらない状況で、孤立しているという状態を目のあたりにして、もし自分のまちでこのような状況になった時を考えてみたとき、マニュアルを策定するまでが長いのではないかと思った。また、進捗状況も 25%と計画より遅れているという状況を見ると、もう少しスピーディーに考えていかないといけないのではないかと思っている。

そのような中で、先程も自治会などの横のつながり、各種団体なども含めて災害ネットワーク、民間を中心に、そしてそれらを行政が取りまとめるネットワークなどを考えてマニュアルを作成してはどうかと思う。

高齢化も進んでいる中で、安心できるまちになるのではないかと思うので、スピードを上げて策定していただきたい。

- 事務局：おっしゃられる通りと思うので、この件についてはどの様な状況なのか所管において整理し、直接お答えし、また次回の会議でお知らせしたい。

また、ボランティアの受け入れ態勢等については、これまでに議会等でも話題となっており、光市が被災した際のボランティアの受け入れ態勢など具体的には社会福祉協議会において構築されつつある。資料では総務部所管となっているが、こうした点を含めれば福祉保健部も関わりがある。

いずれにしても、あまりにも遅いというご指摘であったので、しっかりと回答したい。

- 委員：市の行事に自主的に参加しているかなどあるが、その中でクリーン光の参加者が少なくなっている状況にある。みんな「意識はある」とか「参加したい」とか、どの様な時に参加したいと思うのか。市の場合には年に 1 回であるが、自分の地域の自治会では年に 5 回ある。よその地区よりは多いと思うが、山間部なのでこれからの時期は草が生えるので、それぐらいやらないといけない。

クリーン光は、年に 1 回であるが、だんだん参加者が少なくなっていることには何か理由があるのかと思う。市の人口が減っている、高齢者が増え体が動かない人が増えているとか考えるが、そんなに急に少なくなることは無いと思う。

市や施政に興味があるなどとは別の問題として、こうしたことに参加する人はだんだ

ん増えるというのが普通ではないかと思う。

- 事務局：まちづくりの指標からのご意見で、今の議題とは異なっているが、資料の 11 ページ中段辺りにクリーン光の指標がある。ご意見をいただいたように伸び悩んでいる。

事業の目的としては、青少年の健全育成ということで取組みを始めた事業で、参加者の割合は書いていないが、近隣と比較しても光市ほど多くの青少年が参加している例は無いと聞いている。

確かに参加者数が減っており、行事等に参加しようという意識が低下しているのではないかというお話であるが、これだけにとどまらず、この指標の中には参加率が下がっている項目も見受けられるので、ただ今のご意見については、しっかり所管に伝えるとともに、市としても施策であったり行事であったりに、参加していただけるようなことや、視点を変えた取組みなどについて検討してまいりたい。

- 委員：資料を拝見したが、私は、弱者の視点からの見方をしてきたし、現在もそのつもりである。そうしたことからいえば、先程、別の委員からも発言のあったバス便の問題はこれからも問題が大きくなっていくと思う。先の委員は、若い高校生の足としての話であったが、これから先も徐々に高齢化していく中で言えば、車を手放さなければいけない人たちがどんどん増えてくると思う。この会議の皆さんの中で車を使っておられない方はおられないと思うが、実際には自分で車を操作できない人たちの思いも考えていく必要があると思う。アンケートを見ても、満足度の低いものの中にバスの問題が必ず入っている。こういう中でこれから先、バスというものを公共交通の中心に据える考え方をとっていただきたいと私は思う。

市の政策工程表の中にはバスのことが入っていない。この項目が常にアンケートの上位にあるということを考えれば、この中に入れておいていただきたいと思う。

- 事務局：先程も申しあげたように、政策工程表については、市のすべての施策なり事業なりを網羅している訳ではない。確かに、「バス交通網の整備」の項目は、前回、今回とニーズ度において上位にある。ご意見として承りたい。

- 委員：先程から話を聞いていると、自治会やバスの問題などが出ている。政策工程表の中で計画が遅れているものが平成 24 年度でおよそ 12~13 件あるが、25 年度でどの様になるか分からない。これは 9 月になればわかるとのことであった。

この中で、私は地域コミュニティのことに関わっているが、この中では、バスの問題や自治会の問題、ゴミの問題など色々なことを地域でどれだけできるかということで基本方針の策定を進めているが、本当は 4 月から活動が進んでいるはずであったが、スケジュールを見ると半年遅れている。

平成 25 年 3 月から十数時間の会議をやって、ワークショップもやって、基本方針の素案までできている。その後、基本方針の（案）が行政の中で通らない。ここで 5 カ月



遊んでいる状態となっている。早く進めないと、現在、地域では、公民館は公民館、自治会は自治会、社協は社協でバラバラで活動しているが、皆さん高齢化が進んでいく中で、早くコミュニティを作らなければいけないが、基本方針ができないと動かないと思うので、できるだけ早く行政の方で進めてほしい。本当は自分たち地域の問題であると思うが、その辺りのことについてお伺いしたい。

- 事務局：所管である市民部において整理を進めているので、ご意見は伝えたい。早く整理をして必要な協議を行いつつ進めるよう伝えたい。

この問題については、公民館においても、各地域ごとに状況が異なる。自治会も、自分の自治会と隣の自治会で考え方が違ったり、核となる人がいる・いないなど千差万別である。また、旧大和・旧光など10年経つが地域のおかれた状況も違う。住宅街であっても高齢化の問題はあるし、隣家を見守るにしても隣家に行くのに車がいるような地域もある。こうした多様な状況の中で行政主導ではなかなか出来ないということもご理解をいただきたい。

コミュニティの再生ということは市の最優先の命題であることは、市長も度々申し上げているが、この問題については旧来、色々な方法を地域の皆さんと協議をしながら進めてきたが、その都度の状況に応じて、時代の変化等もあってその政策が良かった・悪かったという判断は出来ないが、方針転換をしながら、皆さんの意見を聞きながら進めてきている。所管を擁護するつもりもないし、市の言い訳をするわけではないが、この問題については、概ねこれでいけばどの地域も、どの団体も了承できるという方向性を見出していく必要があるので、今年度も具体的な内部協議も含めて整理を進めてまいりたい。明確に「いつまでにどうする」というお答えは出来ないが、真剣に取り組んでいることについてはご理解をいただきたい。

## 5 その他

### ○ふるさと光の会のご案内

ふるさと光の会は、主に関東地域に在住する光市出身者の会で、ふるさと光市へのUターンの促進や交流の促進、後進への支援、光市の発展に寄与することなどを目的に活動しており、毎年、同じふるさとを縁とするネットワークづくりの一環として、東京において交流会を開催している。この交流会は、会員に限らず、光市を愛する出身者または所縁のある方であればどなたでも参加いただける。

今年は7月4日（金）に東京都港区芝にある東京グランドホテルで開催予定とのことであるので、会場は遠いが、旅行や知人をお訪ねになる予定があれば、スケジュールを合わせていただき、ご参加いただきたいと思いますし、関東地域に光市出身者の友人などおられたら、一緒に参加いただくなど、同じふるさとの絆で盛り上がるのであればとの案内をいただいておりますので、検討いただきたいと思います。

また、併せて、会員についても鋭意募集中とのことなので、関東地域のお知り合い、

ご友人など、ご紹介いただきたい。

#### ○その他

次回の協議会は、7月か8月頃に開催したいと考えている。

議題については、「新市建設計画の改定」を中心にご協議いただく予定としている。正式な案内については、別途送付させていただく。

終了 19時57分